

インターバンクの声（2017年7月20日）

オバマケアの見直しもうまく行かず、トランプ米大統領の政権運営の懸念が一層強まったことで、米FRBの利上げ時期の後ずれ観測も広がっているが、円相場での円買いに今一つ勢いが無いようにも感じられる。

昨夜も米金利が上昇に転じ、6月の米住宅着工件数が市場予想を上回ってもドル買いに勢いがつくことはなく、112円台前半ではドルの上値が重くなっているのは確かだが、米金利が再び低下傾向になっても、6月中旬から下旬にかけての111円台中盤にせまるとドル売り・円買いが止まってしまう。

先週後半から続いたドル売り・ユーロ買いの流れが、昨日はユーロ売りになったことが影響していたのかも知れないが、111円から114円のレンジ相場を想定していれば、これからドルを売ってもあまり妙味がないかも知れない。

夏休み返上で運用成績の向上を狙っていたヘッジファンド勢も、なかなかレンジを抜けない相場に苦労しているようだ。今晚のECB理事会後のユーロ相場が静かになってしまうようだと、結局は彼らも夏休みを取り始めるかも知れない。

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。